

衆議院国土交通委員会ニュース

平成 26. 3. 14 第 186 回国会第 4 号

3 月 14 日（金）、第 4 回の委員会が開かれました。

1 奄美群島振興開発特別措置法及び小笠原諸島振興開発特別措置法の一部を改正する法律案（内閣提出第 4 号）

- ・太田国土交通大臣、野上国土交通副大臣、北川環境副大臣、坂井国土交通大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、民主、維新、公明、みんな、共産）
- ・望月義夫君外 3 名（自民、民主、公明、みんな）から提出された附帯決議案について、若井康彦君（民主）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもってこれを付することに決しました。
（賛成一自民、民主、公明、みんな、共産 反対一維新）

（質疑者及び主な質疑内容）

若 井 康 彦 君（民主）

- ・奄美群島は国定公園として整備されているが、国立公園の指定や世界自然遺産登録に向けた動きの中で環境省はどのような方向で環境整備していくのか。また、どのように地域の活力向上につなげていくのか。
- ・奄美群島振興交付金に支援メニューの一つとして、農林水産物輸送費支援があるが、加工品、例えば大島紬等の特産品の輸送費も対象とすべきと考えるが、大臣の認識を伺いたい。
- ・産業振興促進計画の認定基準として「産業の振興及び雇用機会の拡充に相当程度寄与するもの」であることを求めている。この基準は現実的ではなく、地元の小規模な事業が切り捨てられる懸念がある。むしろ小規模な事業をサポートする仕組みが必要と考えるが、どのように取り扱うつもりか。

西 岡 新 君（維新）

- ・奄美群島と小笠原諸島について観光振興によって交流人口増加を図る必要があると考えるが、今後、観光振興にどのように取り組んでいくつもりか。また、両地域への外国人の誘致に関してどのように取り組むつもりか。
- ・小笠原諸島については、交通アクセスの改善が必要と考えるが、TSL（テクノスーパーライナー）の就航が見送られて以降は、高速の交通アクセス手段の整備が進んでいない。航空路開設が必要と考えるが、その実現性はどうか。
- ・新たな「国土のグランドデザイン」において排他的経済水域等の保全、海洋資源の利用等の離島の国家的役割をどのように位置付けるのか。また、今後の離島振興に向

けた大臣の考えを伺いたい。

杉 本 かずみ君（みんな）

- ・奄美群島及び小笠原諸島の地理的・歴史的特殊事情を踏まえた上で、両法律を改正する意義をどのように考えているか。
- ・沖縄と連携した観光振興の観点から、奄美群島に入る航路・航空路の運賃通減が必要であるとするが、今後の方向性を伺いたい。

穀 田 恵 二君（共産）

- ・奄美群島振興交付金については、地元の要求に応じて柔軟に対応できる運用とするとともに、同交付金の額を増やす必要があると考えるが、大臣の考えはいかがか。
- ・若年層の雇用を増やすため、産業振興の方向性をどのように考え、今後どのように支援していくつもりか。また、大島紬や黒糖焼酎といった地場産業を育成していくために、例えば、従事者に対する 5 年間の生活保障といった継続的な支援が必要と考えるが、今後の支援策についてどのように考えているか。

國 場 幸之助君（自民）

- ・本改正案においては、目的規定に「定住の促進を図る」旨を追加している。そこで、従来の振興策にはない、大学の研究センターを誘致するなど、高等教育機関の活用によって若年層の定住を促すといったアイデアが必要だと思うが、大臣の認識を伺いたい。
- ・小笠原諸島は、我が国最南端の沖ノ島や最東端の南鳥島を含み、我が国の排他的経済水域の約 3 割を確保して

いる。小笠原諸島において、政府は、海洋基本法の海洋基本計画に基づいて、具体的にどのような取組を行っているのか。

中野 洋昌君（公明）

- ・ 関西には奄美群島からの移住者が多く、奄美・関西間の航空運賃の逓減に係る要望は切実である。運賃逓減のための支援の必要性をどのように考えているのか。また、航空事業者に自助努力を促す必要があると思うがどのように取り組むのか。
- ・ 本日の本改正案の質疑を受け、奄美群島及び小笠原諸島の振興開発に向けて、今後どうしていくのか大臣の決意を伺いたい。